

農作物を病害虫から守る取り組みにご協力を ～ジャガイモシストセンチュウを防ぐために～

7月に入り農作物の生育が進む時期になりました。
農作物は病害虫に弱く、病気にかかると収穫量が減少し大きな打撃となります。
また、広域的にまん延してしまうと、主要農作物の作付けができなくなる恐れもあります。
昨年本町では、ジャガイモの重要病害虫である「ジャガイモシストセンチュウ」が発生しました。
今回は「ジャガイモシストセンチュウ」を防ぐための取り組みをご紹介します。

ジャガイモシストセンチュウはどんな害虫なのか



ジャガイモシストセンチュウのシスト

ジャガイモにとって特にやっかいな害虫で、抵抗性がない品種（男しゃくなげなど）に大きな被害を与えます。

ジャガイモシストセンチュウは、ジャガイモの根に侵入して養分を吸収することで、ジャガイモの生長を著しく阻害し、収穫量を大幅に減少させます。その卵は、シスト（堅い殻）に包まれていて、ジャガイモが作付けされていなくても、ふ化せずに長期にわたり生き残るため、一度侵入した畑・地域から根絶させることが困難な害虫です。

ジャガイモシストセンチュウが発生した地区では、種いもの作付けができなくなるため、ジャガイモ産地としての存続が危ぶまれることになります。

オホーツク管内では、ほかに亜種である「ジャガイモシロシストセンチュウ」が発生していますが、本町での発生はありません。

まん延防止対策としての取り組み

ジャガイモシストセンチュウは、一般的に土壌を介して広がっていきます。

シストを含む土壌が人や車両へ付着し畑に持ち込まれることが要因となることから、畑への出入りの際は車両の洗浄を行ったり、外部の人が立ち入る場合はブーツカバーを着けるなど、土壌を持ち込まない、持ち出さないことが重要な対策となってきます。

そのほかには、発生した畑に畦畔や明渠の設置など、隣接畑への土壌流出防止対策をしています。

また、近年育成された品種は、作付けすれば「ジャガイモシストセンチュウの密度」が下がる品種となっており、町内では抵抗性のある「スノーマーチ」が普及してきた経過があります。



車両洗浄の様子

本町における発生状況

町内では、平成19年に最初の発生が確認されてから、しばらく発生はありませんでしたが、令和3年～4年にも発生し、22か所の畑で新たに確認されています。

農作物の土壌病害虫発生予防のため畑には入らないで！

土壌に生息する虫や微生物の中には、農作物に害を及ぼすものが存在します。一度発生すると治療・根絶が困難な病害虫も存在し、発生地域が拡大していきます。

土壌病害虫の原因には、自然要因による発生とは別に「人（靴底の土）」や「車両や農作業機械（タイヤなどに付着した土）」の畑への出入りによる土の持ち出し、持ち込みなどが発生源になることが多く、あっという間に被害が拡大します。

農業者の方々も畑の土の持ち出し、持ち込みをしないよう使用後の農作業機械などの洗浄や畑への立ち入り禁止看板の設置などの対策に努めています。皆さんも不用意に畑に入らないようにご協力をお願いします。

畑は農家にとって大切な生産の場です。これからの季節、ジャガイモをはじめ農作物の花々や風景がきれいな時期となりますが、写真などを撮影する際には畑に絶対立ち入らないようにお願いします。



立ち入り禁止看板



ジャガイモ畑の風景

■ 問合せ 農林商工課農政係 (☎ 47-2116 役場2階 窓口13番)